

2019年5月14日

Q. ファンドラップ市場はどうして広がっているの？

A. ファンドラップ市場拡大の理由の1つには、「お客さま主体の商品選択」という考え方の広がりがあります。

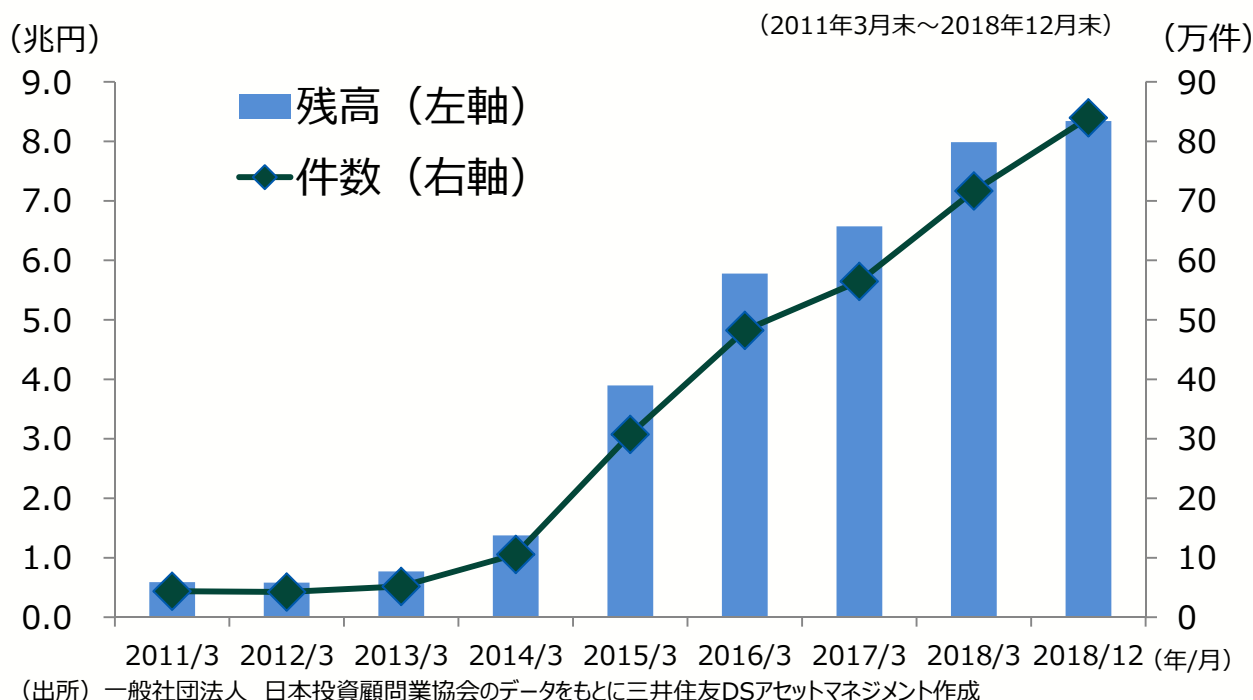
日本国内のファンドラップ口座の残高と契約件数は2014年以降大きく拡大しています。2018年12月末時点では、純資産残高は約8兆円超、契約件数は約84万件となっています。

また日本国内では、同じく2014年頃よりフィデューシャリー・デューティー（以下、FD）という考え方が広がり始めました。

FDは「受託者責任」と訳され、お客様の資産を運用する上で金融機関が負う責任のことを指します。運用商品が高度に多様化する中で、お客様の利益拡大を一番に考えた業務運営がこれまで以上に求められるようになりました。

ファンドラップはお客様ご自身で運用方法などを選んでいただけることから、一人一人のニーズに合った商品をご提供できるため、こうしたFDの広まりが追い風になっていると考えられます。

<ファンドラップの口座契約数と残高の推移>



※上記は過去の実績であり、今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

＜ご留意いただきたい点＞

■この資料は具体的な商品をご説明するものではないため詳細を記載しておりませんが、元本保証のないリスク性商品のご購入やご売却、保有にあたっては、手数料等をご負担いただきます。■リスク性商品には、各種相場環境等の変動により、投資した資産の価値が投資元本を割り込む等のリスクがあります。■リスク性商品を中途解約する場合は、ご購入時の条件が適用されず不利益となる場合があります。■くわしくは、三井住友銀行店頭の各商品の説明書等を必ずご覧ください。



三井住友銀行

株式会社三井住友銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第54号
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会